

いまコミュニケーション について思うこと

滝浦真人（放送大学）

1. 受身形で「求められる」ことへの引っ掛かり

- 「求められるコミュニケーション」「期待される人間像」etc. の受身形

「求める」「期待する」主体は誰なのか？
——「社会」？「場」？「空気」？？

読む側において“主体 = 自分”ではないとの含みが生じる
“誰か・何かに合わせる”ことが示唆される

➡ 何に合わせていけばよいか？という“規範さがし”の心？

規範としての敬語？

Q. 「今後とも敬語は必要だと思いますか？」
(「国語に関する世論調査」文化庁)

		必要	ある程度必要	
H 4		49	45	(%)
H 15		68	28	
H 25		85	14	

この「49%→85%」の変化が何を表しているか？

「敬語愛」が深まったというより「**規範としての敬語**」期待？

2. 現在の“敬語状況”から見える 「コミュニケーションの現在」

- **敬語の5分類**（「敬語の指針」2007年、文化庁）で見ると、
ここ半世紀ぐらいの間で進行中の大きな変化がある
- **他者を立てる敬語**（「**尊敬語**／**謙譲語**／**丁寧語**」）と、
自分がへりくだる敬語（「**丁重語**」）／**ただ丁寧に言う敬語**
（「**美化語**」）とで分けると、前者から後者への変化、後者の増加が目につく現在

授受動詞（補助動詞用法）敬語形の変化

- ✓ ヤル系「テサシアゲル」は（特に対二人称で）使いにくくなり、
- ✓ クレル系「テクダサル」もモラウ系「テイタダク」に代わられつつある
- ✓ 「サセテイタダク」現象

「（人）に…させていただく」だったものが、

「（人）に」を必要としないただの「…させていただく」に

➡ 受け手尊敬の「謙譲語」から自己謙遜の「丁重語」へ

人びとの敬語的関心の変化？

- 敬語と自他

他者への表敬から自己の謙遜（自己の品行呈示）へ

丁寧ではありたいが他者を志向しなくなっている？

← タテ秩序からヨコ秩序への社会的変化に伴う
敬語的判断の個人化からの負担感？

3. 受身形で考えることを止められたら？

- 受身的思考の自己閉塞的息苦しさ？

主体の不明な「求められる」ことを考えることを保留にし、
まずもって「自分」はどんなコミュニケーションを「求め」たいか？
を考えてみることから始めては？

- “物言わぬ”ことをよしとしない（しかし「論破」でも「ハードクレーム」でもない）コミュニケーションを望むことは叶わぬ夢か？